

1 はじめに

大賀郷小学校は明治10年に大里の崇福寺で開校し、地域に愛される学校として141年の歴史と伝統をもつ学校です。地域と保護者は、「学校のためならば」という意識が強く多くの協力を惜しまない方々である。児童は素直であるが保育園から中学校まで同じ集団で生活し、学習している。序列が構築されている面もあり様々な面で影響が出ている。

本年は、平成26年度より大賀郷中学校との小中一貫教育についての研究を行い、9年間を見通したカリキュラムとスタンダードを作成し平成30年度に本格的実施に向けて検証・準備を行う年である。

また、平成30年度からの新しい学習指導要領実施に向け各教科の指導計画等の見直しを行わなければならない。中でも新たに教科となる「特別の教科 道徳」「外国語活動」は指導法、授業の進め方、年間指導計画をしっかりとしたものとして取り組まなければならない。オリンピック・パラリンピック教育の推進も年間を見通した取り組みが求められている。

子どもたちを健全に育成させ、基礎・基本の力を伸ばしていけるようにチーム大賀郷として教師一人一人の指導力・授業力の向上を図っていきたいと考える。

2 目指す学校像

大賀郷小学校教育目標

- 「自ら学びよく考える子」
- 「豊かな心と丈夫な体をもつ子」
- 「島を愛し世界を理解する子」

大賀郷中学校教育目標

- 「進んで学習する人」
- 「礼儀を大切にする人」
- 「心身ともに健康な人」

(1) 教育目標を具現化するための学校像

「子どもも大人も一人一人が輝くことができる学校」

キーワードは「安心・信頼・協力」の3つ。

「安心」は、いじめ、体罰のない子どもが安心して通うことができる学校、保護者が安心して通わせることができる学校。

「信頼」は、児童一人一人を大切にされた教育活動を行い、地域・保護者と共に歩み育てていくことで信頼が得られる学校。

「協力」は教職員が切磋琢磨しながら、協力して教育活動を行っていくことで指導力を向上させ、子どもたちにわかる授業を展開できる学校。

また、義務教育9年間を見通した小中一貫教育を推進していくことに加え、保育園、都立八丈高等学校と共働して保護者と共に子ども主体で考え実践していける学校を目指します。

これらの実践をPTAや地域の方など関係する方々の協力を得て、子供たちの健全育成の連携を築いていきます。

(2) 目指す児童の姿

- ・気持ちの良いあいさつや返事をし、すすんで人とかかわる。
- ・学ぶ楽しさを味わい、自ら力を発揮する。
- ・自分の身体に関心をもち楽しんで体を鍛え、健康的な生活を送る。
- ・学習の課題をつかみ、解決に向け最後まで追究する。
- ・相手の立場に立って考え、思いやりの心をもち行動できる。
- ・自分の住んでいる地域（島）を誇りに思い、地域の一員として役立とうとする。
- ・中学への憧れをもち、将来への夢をもつ。

(3) 目指す教職員の姿

- ・「はじめに子どもありき」子どもによりそい、子どもを伸ばすことに喜びをもつ。
- ・「教師は授業で勝負する」よりよい授業をめざして授業力向上に励む。
- ・「教師は最大の教育環境である」人権感覚をもち、言葉遣いや服装、時間厳守、規律の遵守など子どもの手本となるようにする。
- ・「チーム学校」という意識で学校経営方針に基づき主体的に学校運営に参画する。
- ・「地域の中の学校」すすんで地域教材・人材を開発・活用し、豊かな教育実践に役立てる。
- ・子ども一人一人の心や体の状態を把握し、いじめや事故が起こらないようにする。
- ・小中学校で連携し、9年間を見通した中で授業改善を図る。

(4) 保護者・地域から信頼される学校の姿

- ・子どもが、学校の中で良さを発揮している。
- ・教職員が一人一人の子どもを大切にしている。
- ・学校の方針や教育内容を丁寧に周知している。
- ・保護者・地域の願いを受け止め改善に努めている。
- ・保護者・地域が教育に参画する機会を設けている。

3 目標達成に向けた具体的な方策

(1) 学力向上の取り組み

- ・基礎・基本の内容の定着（スタンダードを基に「はい・立つ・です」等の学習規律の徹底）
- ・国語科・社会科・算数科・理科の4教科で観点別学習個人カードを作成し学期毎に各観点の平均が目標に満たない児童は校内特別支援委員会において個別の話し合いを設け改善策を検討する。
- ・「問題解決型」、「主体的・対話的な学び」の授業を通して学習を充実させる。

(2) 体力向上の取り組み

- ・健康安全教育の実施
- ・オリンピック・パラリンピック教育の充実と実施
- ・「一学級一取組、一校一取組」の実践

(3) 人間関係力向上の取り組み

- ・基本的生活習慣の定着（あいさつなど）
- ・学級活動・特別活動・道徳教育の充実
- ・地域に根差した教育の推進（小中一貫）
- ・休み時間はできる限り子どもと一緒にあそび児童との信頼関係を築くとともに子どもの人間関係

や悩みを把握し、指導に役立てる。

(4) 伝統・文化を学ぶ取り組み

・地域の方の協力を得ながら、八丈島の伝統や方言などを学ぶ活動を通して、郷土を愛する心情をもった子どもを育てる。

八丈太鼓、方言給食、稲作、保育園・大賀郷中学校・八丈高等学校との連携 など

(5) 小中一貫教育の取り組み

・平成30年度より小中一貫教育の実施に向けて、各教科・領域および行事などの9年間を見通した指導計画を基に系統性があり効果的な教育の推進

(6) 新学習指導要領に向けた取り組み

・道徳教育推進教師を中心に、教科化に向けて「特別の教科 道徳」に対する研究を深め実践できるようにする。

・国際理解教育担当を中心に外国語教科化に向けて研究を深める。ALTを活用しながら全教員が外国語指導を行えるように研究・実践を行う。

(7) 特別支援教育の取り組み

・発達障害のある子どもへの指導に特化するのではなく、特別支援教育的発想をもち、全ての子どもにとって良さを発揮できる指導を行う。

・たんぽぽ学級では、子どもの将来を保護者と共に考え、得手の部分を計画的に向上させる教育を推進する。

・通級指導については子どもの実態を把握し、課題解決のための計画的な指導を行う。

4 教職員の能力開発・資質の向上

(1) 研究・研修の充実

・常に学び向上して行く姿勢をもつ。「問題解決型」、「主体的・対話的な学び」の授業を行えるように研鑽をつむ。

・校内研究の充実

・全員が指導案を作成し、授業づくりをする。(授業観察年3回、初めの自己申告の授業観察は道徳を専科は自分の教科)

・「分かる授業・楽しい授業」の創造に向け授業改善推進プランを活用する。

・研究会や研究発表・研修に参加したときは伝達講習を行い全教職員の力にしていく。

(2) 意図的・計画的な学校・学年学級経営

・学年学級・専科経営案や指導計画を基に、計画的に「目指す児童の姿」に向けて教育活動を展開する。

・週ごとの指導計画を作成し毎週計画的に教育活動を行う。(前の週の毎週金曜には提出)

単元名・目標・学習内容・準備・安全配慮事項・実施時数などの明記を

(3) 心の教育の充実

・いじめ防止対策委員会を要として問題行動の早期発見と迅速な危機対応を行う。(確実な報・連・相の実施)

・道徳の時間の充実、副読本や読み物資料や東京都教材集や文科省「わたしたちの道徳」の活用

5 学校運営

- (1) 学校経営方針を受け、学校の教育目標や子どもの実態に即した学級経営案、週ごとの指導計画を作成し提出
- (2) 職員会議<東京都・八丈町の小学校管理規則に基づく>
職員会議は、校長の権限と責任を前提に開催するものであり、校長が招集し、その運営を管理するものである。議決機関ではない。
- (3) 事案決定について文書決裁の徹底
各分掌から出される教職員向けの文書及び保護者に配布するすべての便り（学校・学年学級・生活指導・給食だよりなど）について主幹教諭・副校長・校長による簡易決裁を経て発出する。
- (4) 危機管理
 - ・ 毎月の安全指導や安全点検により安全な環境の整備を行う。
 - ・ 毎週生活指導の会で情報を交換し不登校・いじめの早期発見をする。
 - ・ 個人情報の管理を徹底する。
 - ・ 食物アレルギーのある子どもや配慮を要する子どもを全教職員が覚え、いざというときに対応できるようにする。
 - ・ 外部から、子どもの在籍についての問い合わせがあっても絶対に返答しない。
 - ・ 管理職への確実な報・連・相の実施を徹底する。

6 服務について

- (1) 教育公務員としての自覚
 - ・ 法令等を遵守し、適正に服務する。（出退勤時刻の厳守、職務専念、適正な届出、休暇届は事前申請）
 - ・ 体罰の禁止 刑事上・民事上・服務上の問題となる。何より教育上効果がない。
 - ・ 服務事故防止（セクハラ・体罰・個人情報・飲酒による事故など）に努める。服務事故防止研修を実施する。
 - ・ 保護者や地域の方との対応（公私の区別と教員としての自覚を）

7 学校予算について

- ・ 学校予算の計画的・効果的な執行を行う。
- ・ 教材・教具・図書費、総合的な学習などの時間の重点予算の充実と執行する。
- ・ 物品の丁寧な取り扱いと節水・節電・紙の節約など教職員自ら範を示す。

8 おわりに

教育という営みは、学校という場だけで行うものではありません。保護者・地域と共に子どもの健やかな成長を願って行うことが重要です。そのためには、子どもにとっての最大の環境は教師であることを忘れずに学校が保護者・地域から信頼されなければなりません。学校は教職員が一丸となってチーム学校として子どもに真摯に向き合い全力を尽くしていきたいと考えます。